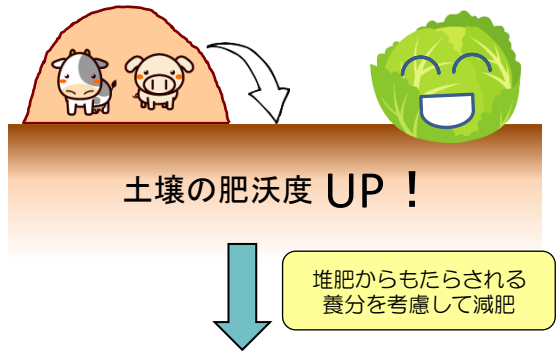


家畜ふん堆肥の連用でキャベツ栽培における化学肥料を削減

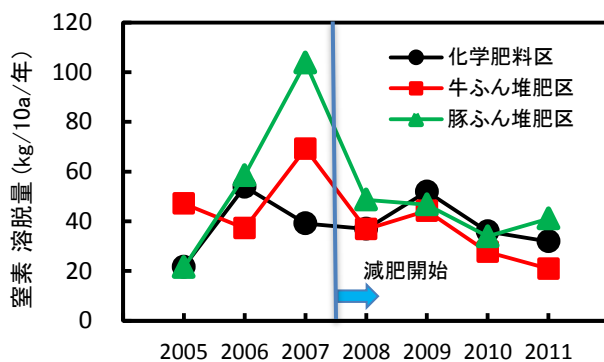


堆肥を8年連用したほ場の施肥量

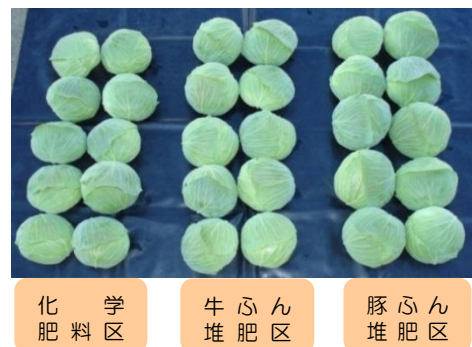
キャベツにおける化学肥料 (kg/10a)

| | 窒素 | リン酸 | カリウム |
|--------|------|------|------|
| 牛ふん堆肥区 | 24.0 | 0 | 0 |
| 豚ふん堆肥区 | 20.0 | 0 | 0 |
| 化学肥料区 | 30.0 | 15.0 | 30.0 |

※冬作キャベツ-夏作スイートコーンの年2作体系での試験結果



年間窒素溶脱量の推移



化学肥料を減らしても、化学肥料区と同等の収量を確保できます。

本研究は農食研究推進事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」で実施しました。

家畜ふん堆肥を毎年継続的に投入すると、土壌中の炭素や窒素、リン酸、カリウムの量が徐々に増加し、土壌の肥沃度が高まります。そこで、キャベツについて、堆肥の養分を考慮して化学肥料を減らす研究を進めたところ、施肥量を大幅に削減できました。また、施肥量を減ら

しても、収量は化学肥料だけで栽培した場合と比べ同等以上を確保できました。本技術は、化学肥料のコスト低減ができると共に、ほ場外に流出する窒素量を減らすことができるため、地下水や河川の富栄養化防止にも有効です。

(東三河農業研究所)